

令和6年度



要覧



埼玉県のマスコット コバトン

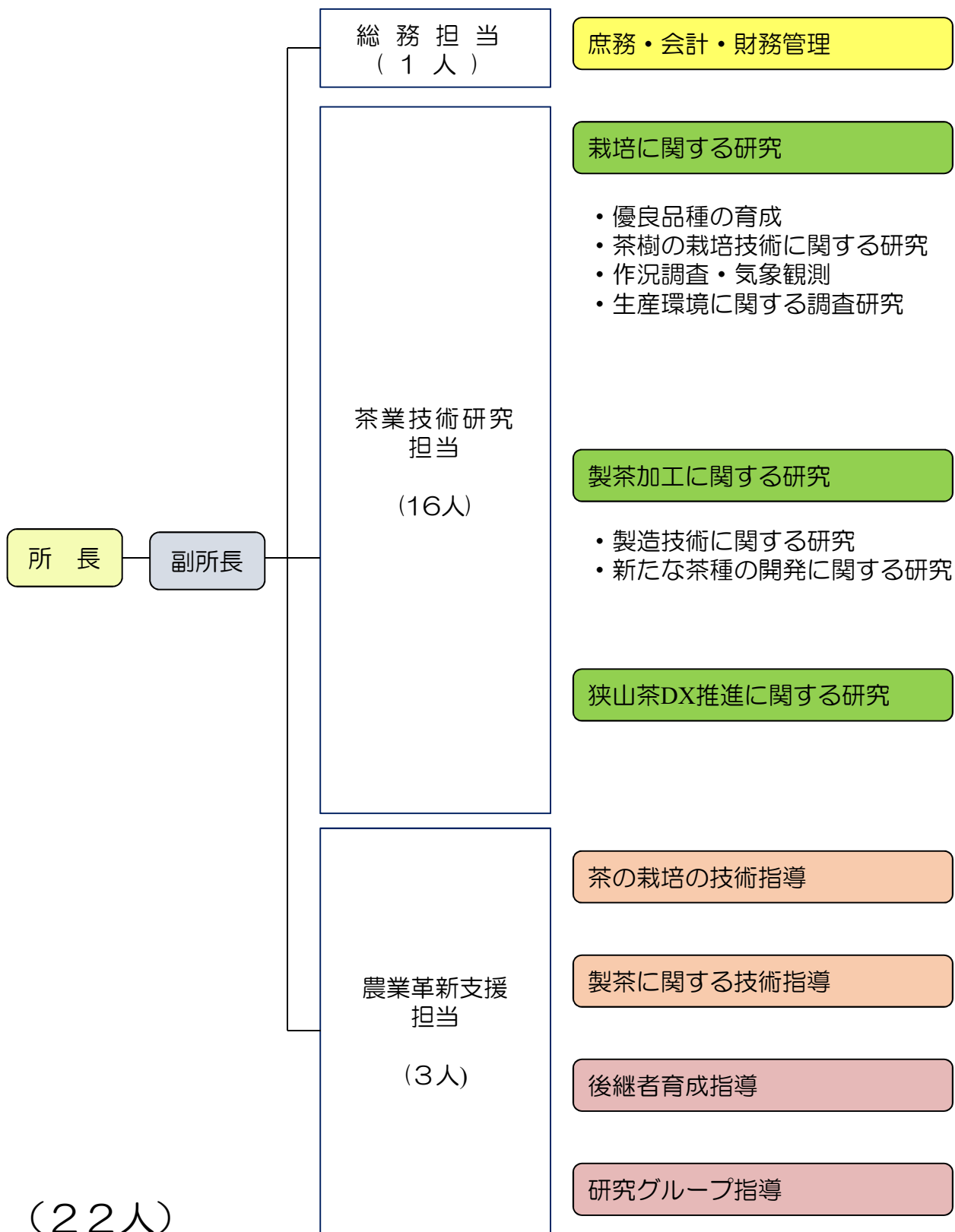


埼玉県茶業研究所

Saitama Tea Research Institute

組織

令和6年4月1現在



業務内容

◇ 茶業技術研究担当

1 栽培に関する研究

(1) 優良品種の育成

茶栽培の北限に位置するため、寒干害など気象災害リスクを軽減でき良質多収な品種の育成に取り組んでいる。平成27年3月に品種登録された桜葉(さくらば)様の香りが特徴的な「おくはるか」や令和3年1月に品種登録された早生で多収である「さやまあかり」など、これまでに11品種を育成している。



人工交配による優良品種育成



新品種「さやまあかり」

(2) 茶樹の栽培技術に関する研究

寒干害や晩霜害等の気象災害を回避するための栽培技術の開発を重点に実施している。

近年は、異常気象や温暖化に対応するため、これまでの常識では考えられない新たな栽培管理技術の研究にも取り組んでいる。



幼木茶園の防寒

(3) 作況調査・気象観測

研究所内の作況調査ほ場において、萌芽、摘採期等の生育状況や収量等を調査し、寒干害や晩霜害等の実態解析・被害防止策等のための基礎データを長期的に蓄積するとともに、関係機関等に随時情報提供している。



作況調査ほ場

(4) 生産環境に関する調査・研究

ア 病害虫防除の調査・研究

産地で発生している病害虫について、省力化・減農薬を目指した防除体系の確立や新たに発生した病害虫について、発生消長や有効な防除方法の解明を目的とした調査・研究を行っている。また外部機関から委託された新規農薬の開発・登録や農薬残留試験を実施している。

イ 病害虫発生調査・予察情報の提供

所内に予察ほ場を設置し、病害虫の発生状況調査を定期的に行っている。茶園内の病害虫の発生量を調査する他に、予察灯を設置し、害虫の発生ピーク等を観察調査している。

調査データは、県病害虫防除所が行っている現地茶園での調査データと合わせ、県病害虫防除所を通じて予察情報として発表している。



チャ輪斑病



チャドクガ



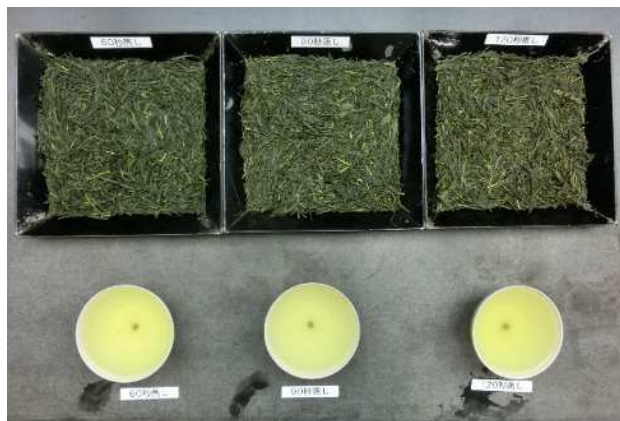
予察ほ場

2 製茶加工に関する研究

(1) 製茶技術に関する研究

ア 本県で育成した品種の普及を促進するため、品種の特色を活かす製造法の確立に向けた試験研究を実施している。また、今後品種登録を予定している有望系統の高付加価値化に向けた製造試験などを実施している。

イ 研究所内に整備された「てん茶」製造設備や粉末化施設を活用し、本県産地の環境に適した「てん茶」や抹茶の生産に関する技術の蓄積を行っている。



有望系統の蒸熱試験



てん茶蒸熱試験

(2) 新たな茶種の開発に関する研究

消費者ニーズへの対応や、二番茶の利用拡大に向けて、新たな茶種の製造方法の開発を行っている。県育成品種を活用し、香りに特徴のある萎凋茶や和紅茶、ほうじ茶などの製造に関する研究を実施している。



茶葉中の成分分析

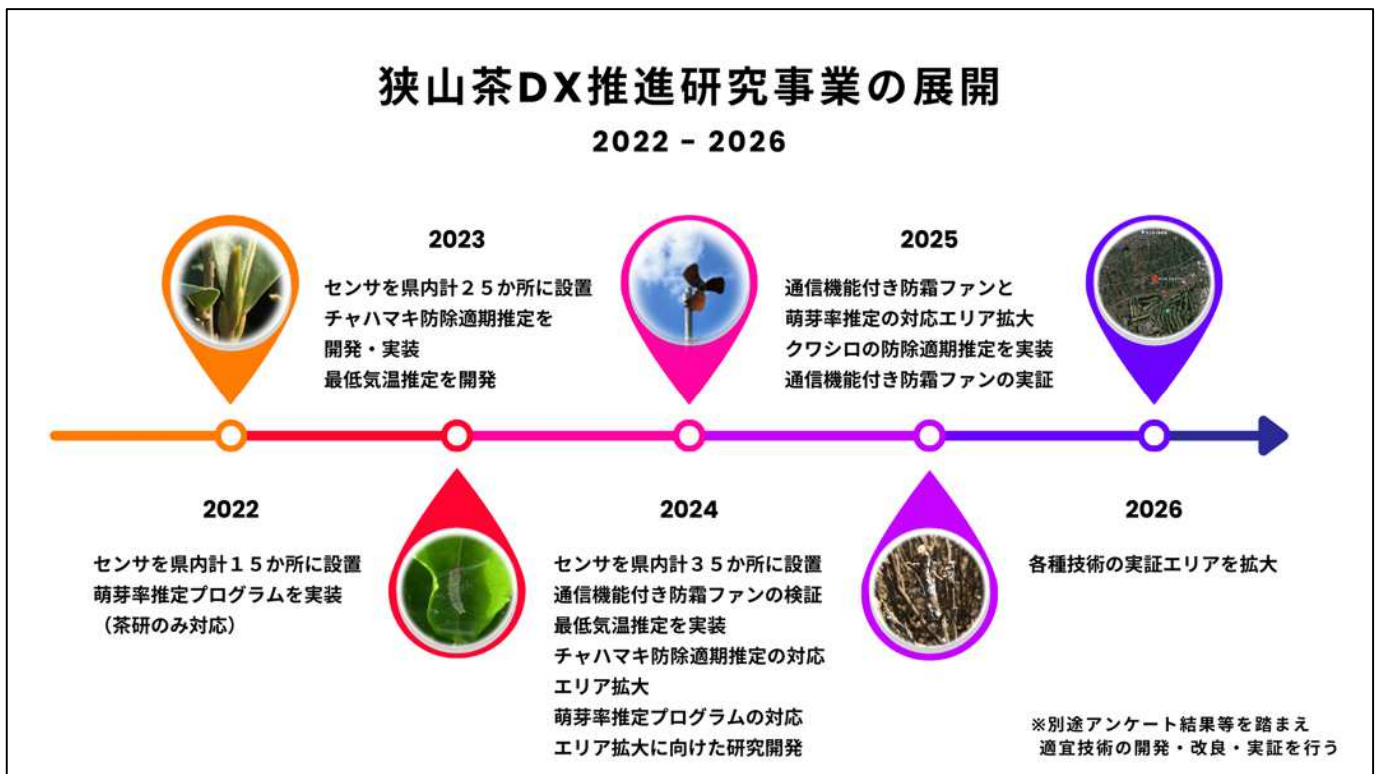


ほうじ茶

3 狭山茶DX推進に関する研究

茶園管理の効率化や茶葉の品質向上等を図るため、生育管理データ等の収集や解析にICTを活用し、新たな茶生産の実現に向けた試験研究を実施している。

これまでにほ場に設置した温度センサーデータや病害虫の発生状況等をいつでも携帯で確認できるシステムを構築し、県内の茶生産者を中心に実証している。



◇ 農業革新支援担当

1 茶農家等への技術指導

(1) 栽培に関する技術指導

生産現場における整剪枝や土壌管理、病虫害防除などの茶園管理指導を実施している。特に、積算温度を基にした発生予察や顕鏡によるクワシロカイガラムシの防除適期の指導について重点的に実施している。



防除適期判定会

(2) 製茶加工に関する技術指導

- ア 各地区研究会等の組織を中心に全国茶品評会、関東ブロック茶の共進会等の出品茶製造に関する技術指導を実施している。
- イ 埼玉県狭山茶品評会、茶業青年団FGTC、各市の品評会や製茶品質評価会等で得られた評価結果をもとに個々の製造技術に関する課題解決の取り組みを指導している。
- ウ 就農後間もない後継者、青年農業者を中心に茶製造についての技術指導を行っている。

(3) 試験研究成果の現地活用

- ア 埼玉県育成品種の普及を図るため、栽培方法及び品種の特性を活かした製造技術の指導を実施している。
- イ IPM等環境に配慮した病虫害防除技術の導入支援を行っている。
- ウ 新たな需要開拓のため、二番茶葉を活用した紅茶生産の技術指導及び商品力向上のための検討会を開催している。



紅茶求評会

(4) 先進的な取り組みに対する支援

ア J-GAP、S-GAP等、国のガイドラインに従った茶の生産工程管理の取り組みを支援している。

イ 茶の輸出に取り組む生産者に対し、農薬のコントロール等の情報提供、技術指導を行っている。

(5) 各種品評会等の実施に対する支援

各市等の品評会や製茶品質評価等の実施についての支援を行っている。



品評会の審査



出品茶

2 狭山茶のPR活動

埼玉県茶業協会や埼玉県茶業青年団などと連携し、狭山茶の消費拡大に向けた各種のPR活動を行っています。毎年、6月上旬に開催される「狭山茶摘み体験フェスタ」には、県内各地や都内から多くの方が来場して賑わいます。

また、入間市内をはじめとする小・中学校の児童・生徒が、社会科見学や体験学習に訪れています。



狭山茶摘み体験フェスタ



小学校の社会科見学

沿革

- 昭和3年 4月 茶業研究所として入間郡豊岡町大字黒須に創立
- 10年12月 新製茶指定試験を農林省から受託、施設拡充増員される
- 14年12月 指定茶原種ほ場を農林省から受託、茶樹品種増殖事業を開始
- 18年 8月 隣接する陸軍士官学校の拡張に伴い、豊岡町扇町屋に移転
- 22年 4月 農林省熊谷農事改良実験所豊岡試験地が併置され茶樹育種事業を開始
- 25年 8月 農業試験場に統合し茶業支場となる 農林省指定試験を開始
- 26年 4月 茶原種農場の設置に伴い、原種事業をこれに移管
- 29年 7月 農業試験場から独立し茶業研究所となる
- 30年11月 天皇陛下（昭和天皇）の御視察を仰ぐ
- 32年 9月 皇太子殿下（上皇陛下）の御視察を仰ぐ
- 46年 8月 2年間のほ場・建物等の整備事業を経て現在地に移転
- 46年11月 茶業試験場に改称
- 57年 4月 製茶部を加工流通部に改める
- 平成元年12月 隣接する土地を購入し試験ほ場を拡張
- 2年 3月 圏央道の建設に伴いほ場の一部を売却
- 11年 4月 栽培部、育種部、加工流通部を改組し、育種栽培部、生産環境部、製茶経営部及びカテキン等利用担当を設置
- 12年 4月 農林部試験研究機関の組織改正に伴い、農林総合研究センター特産支所となり、生産環境担当、特産営農担当、特産加工担当、カテキン等利用担当、中山間営農担当（秩父試験地）、庶務担当を設置
- 14年 4月 特産加工担当とカテキン等利用担当を統合し、加工利用担当とする
- 15年 4月 農林総合研究センター特産支所を、農林総合研究センター茶業特産研究所に改称
- 21年 4月 生産環境担当と特産営農担当を統合し、栽培担当とする
- 22年 4月 中山間営農担当を廃止し、農林総合研究センター茶業研究所に改称
- 24年 4月 農業支援課農業革新支援担当が駐在
- 27年 4月 農林部試験研究機関の組織改正に伴い、茶業研究所として独立
- 28年 4月 栽培担当と加工利用担当を統合し、茶業技術研究担当とする
- 29年 3月 製茶工場内に新たに製茶ラインを整備
- 30年 3月 製茶工場内に新たにてん茶ラインを整備
- 令和3年 3月 講堂の建て替え、温室改築
- 4年 2月 農道の舗装



本館屋上から見える富士山

埼玉県茶業研究所

〒358-0042 埼玉県入間市大字上谷ヶ貫244-2

Tel 04-2936-1351(代表)

Fax 04-2936-2891

Mail f361351@pref.saitama.lg.jp



○土地総面積	101,272㎡
うち試験ほ場	64,330㎡
○建物総面積	4,577㎡
本館	1,666㎡
講堂	491㎡
製茶工場	1,020㎡
資材庫ほか	1,400㎡
○位置	
標高	148.4m
東経	139° 21'
北緯	35° 48'
○気象	
年平均気温	13.7℃
年平均最低気温	8.6℃
(極温)	-12.8℃
年平均最高気温	18.8℃
年間降水量	1,464mm